

# 序

運動器の治療分野について、疼痛の除去や組織の修復、緊張の緩和などの目的で局所への注射治療は必須のものとなっている。最近ではfascia（ファシア）由来の疼痛や古典的な絞扼部位以外で生じる末梢神経障害など、新たな知見が報告されるにしたがつて、注射治療が適用される運動器疾患や病態は増加し、注射部位も多様となった。一方で、標的とされる注射部位は限局され、より正確な注射が要求されている。このような現状において、運動器疾患を扱う者は詳細な解剖学的知識にもとづく確実な注射技術が要求されている。

本書の目的はまさにこのような臨床の現場で、さまざまな症状と向き合っている医師のためにすぐに役立つ注射の実技を提供することにある。また、近年、超音波断層診断装置（エコー）が運動器疾患の分野でも普及し、これを活用した注射手技（エコーガイド下注射）が行われるようになっている。そこで、本書ではエコーガイド下注射の手技の詳細についても解説した。また、エコーが手元がない場合でも最低限の注射が可能となる方法（ランドマーク法）を合わせて紹介することとした。

第1章では注射手技に関する総論的な注意点を述べた。第2章では関節および最近重要視されつつある関節外組織への注射について最新の知見に基づいて説明した。第3章では運動器疾患に関連する局所麻酔法について、各疾患に応じた適切な選択ができるよう、区域麻酔の専門家から詳述いただいた。

明日の診療に大いに役に立つことを切に願うものである。

2019年10月

至学館大学健康科学部健康スポーツ科学科  
後藤英之